

## 令和4年度 相談支援部会 報告

### 1. 部会開催状況

開催日	地域課題・検討事項	解決策・課題
令和4年 5月11日 (第1回)	相談支援事業がたくさんの中事例を持っており、新規の受け入れが進まない。流動的に変わる受け入れ状況の把握を行える手法や方法を検討していく必要がある。	FAX、メールなどにとどまらず、Googledrive など負担の少ない方法の検討。
	質を担保するためのグループスーパーバイズ「以下、「GSV」という。」が必要。 (精神障害や障害児の事例について迷うことが多い)	感染対策を行った上で、ワーキンググループとして参集形式での開催を行う。広域や他の部会との協働を検討。
令和4年6月15日 (ワーキング)	子どもだけでなく、家族へのアプローチへも必要な事例が多く、1か所の事業所だけでは解決しきれない。	GSVにて課題や事例の集約、個別の事案の検討と地域的な役割分担を検討。
	ヘルパーの人材不足や高齢化により、在宅で暮らす重度障害の方の生活継続が難しくなっている。	8月の部会にヘルパー事業所を招き、実態について協議を行う予定。
令和4年7月20日 (スーパーバイズワーキング)	一般の訪問看護事業所の受け入れ体制が飽和状態であり、重度身体障害の方の継続した在宅生活に支障がある。	複数の訪問看護事業所で支えるチームづくり、市外の事業所への相談、訪問医療マッサージなどの代替案の提供。
令和4年8月10日 (第2回)	始良市内ヘルパー事業所も参加。 ヘルパー人材不足と高齢化による身体介護サービスの不足について協議。	・ヘルパー事業所により、現状の許容量にばらつきがある。 ・ヘルパー事業所同士の横のつながりがなく、学びの場が少ない。
	相談支援事業所不足に伴う新規受け入れの困難さの共有、連携しやすいツールを協議。	「相談支援新規受入調査票」の導入。運用についてはモニタリングしていく。
令和4年9月21日	(事例検討型グループスーパーバイズ)	
令和4年10月19日	(霧島市合同事例検討型グループスーパーバイズ)	

令和4年 11月9日 (第3回)	初期面接場面での関係構築に関する技術や情報の共有。	多様な障害種別に対応していける連携体制や知識、技術の研鑽を行う。
令和4年 12月21日 (地域づくり GSV)	就労移行支援事業所が不足しており、就労経験のない方のB型利用の際、就労アセスメントが円滑に導入できない。	就労経験だけでなく、ボランティア経験も含めたアセスメント、B型だけではない就労の機会について情報共有。
令和5年 1月18日	(事例検討型グループスーパーバイズ)	
令和5年 2月8日 (第4回)	今年度の振り返り	

## 2. 部会で抽出された主な地域課題等

- ア 複数のヘルパー事業所より、ヘルパー自身の高齢化や人材不足を理由とした撤退やサービス量の調整を依頼されることが増えてきている。
- イ ヘルパー事業所に横のつながりがなく、情報共有や相互の支援体制が不足している。
- ウ 障害を抱える当事者だけでなく、家族も含めたアプローチを行わないと課題自体が解決できない事例が増えてきている。  
(精神障害を抱えた親が療育が必要な子どもを養育しなければならないなど)

## 3. 今後の予定

- ア GSVによる事例検討の積み上げとともに課題の集積と分析を行う。
- イ 相談支援事業の質の担保のための取り組みと障害福祉サービスとして利用しやすいものにしていく工夫や手法を検討していく。